

下関市立大学広報



梅垣・河津・古園井3氏名誉教授に

名誉教授の称号授与規定の改定により、5月教授会において、本学元教授・梅垣邦胤、河津八平、古園井昌喜の3氏に名誉教授の称号が贈られることが決まった。梅垣氏は経済理論担当教授及び教務部長・人事委員長として、河津氏は民法担当教授及び図書館長として、古園井氏はスポーツ実践・健康科学担当教授及び入試実行委員長・就職委員長としての長年にわたる貢献が評価された。

この決定を受けて、6月8日正午、3氏を学長応接室に招いて、名誉教授授与式が行われ、下山学長から証書と記念品が手渡された。授与式上、3氏は「35～55歳の大切な時期を過ごした下関は第2の故郷だが、これでまたこことつながる1つの糸ができたと考えたい」(梅垣氏)。「自然の流れに従い、この榮譽を受けることにした。大学行政の面で少しは役に立てたかと思う」(河津氏)。「アマススポーツ界では金銭ばかりが追求されるのが近頃の風潮だが、どこまでも「名誉」にこだわるプロスポーツ選手のあり方に見習いたい」(古園井氏)などと心境を語った。

当日は教員有志も式に出席してともに名誉教授授与を祝い、引き続き、3氏を囲んでの昼食会が開かれた。

なお、現在、梅垣氏は名城大学教授、河津氏は北九州大学教授、古園井氏は本学非常勤講師として活躍中である。

キャンパス見学会 2000 開催

夏休み中の8月8日(火)、恒例のキャンパス見学会が開催され、遠くは静岡、兵庫をはじめ県内外から、高校生、保護者、学校関係者など、これまで最多の192名の参加があった。今回は、例年よりもいっそう内容を拡充した開催となった。

233番教室の全体説明会では、米田教務部長による本学の概要、西田入試委員長による選抜の概要と小論文対策、川本就職委員長による就職状況の説明とともに、中央委員会の村野友昭くんによる在学生挨拶があった。

本学学生が案内役を務める学内施設見学、ティータイムに続いて、学科別の模擬講義と自由に選択できる模擬海外研修が行われた。

模擬講義では、素川助教授が「マネーの流れとマクロ経済」、佐々教授が「コンビニの秘密」と題して講義し、模擬海外研修では、熊谷教授がオーストラリア、山田助教授が中国、李専任講師が韓国をそれぞれ担当した。新企画の模擬海外研修は、参加者に特に好評であった。

この見学会の様子は、翌朝、新聞各社によって報道された。

また、これに先立って、6月22日(木)には、例年通り、本学で地域推薦対象の入試説明会が開催され、24校から26名の進路指導担当者の出席があった。



前列左から古園井・河津・梅垣の各氏

セクシュアルハラスメント 防止に向けて

下 田 守

遅まきながら本学でもセクシュアルハラスメント対策に取り組むことになり、このほど委員会が発足した。

セクシュアルハラスメント(セクハラ)という言葉はよく聞かれるが、その意味や範囲が十分に理解されているとは限らない。相手を不快にさせる性的な言動であるが、性的な誘いかけや言葉による嫌がらせだけでなく、近頃は女性に対するお茶くみの強要など性差別的な言動も含むとされている。教職員が学生に、先輩が後輩になど、立場や力強い者が弱い者に向かって行う場合が多く、問題が深刻になりやすい。

つまり、セクシュアルハラスメントは人権問題のひとつであり、大学はこのような人権侵害が起きないように配慮する義務と責任がある。どんな仕組みをつくりどんな対策を行うか、十分な議論を重ねながら取り組んでいきたい。そのために皆さんの意見や情報を寄せていただくことをお願いする。

委員会の当面の連絡先などは次の通り：

セクシュアルハラスメント等対策委員会

委員長 下田 守

副委員長 横山博司・田中裕美子

事務局(学生部) 近藤保子

電話：学生部 0832-52-0288(内線206)

健康相談室 0832-53-8986

メール：harass@shimonoseki-cu.ac.jp

健康相談室の窓から

健康相談室長 横山 博司

現在相談室は、兼任の室長、養護婦、非常勤のカウンセラーの3人体制である。この3人でいわばよろず相談所を開設しているわけである。

相談室と言うと何か特別な人が来るところというイメージがあるようである。しかし現在の相談室の風景は、相当変化している。身体や心の重篤な問題というよりも、かなり軽度の問題が多数を占めている(もちろん悩んでいる学生にとっては重大な問題であるのだが)。

学生の心の問題の代表例は五月病であろう。しかし現在の学生には五月病はあまり発生しない。本来五月病は大学や学間に期待して入学してきた学生が、その期待と現実との乖離に対する失望から陥るのである。現在の学生は、入学時から大学に対する期待も学間に対する関心もそれほど持っていないようである。だから五月病も起きないわけである。

その一方で、従来なら、自分自身で少し考えたり、友人に相談すれば解決しそうな問題で相談室にやってくる(軽度の問題で相談室に来るなどという意味ではないので、くれぐれも誤解のないように)。最も多いのが友人関係である。友達ができない、友達とうまく行かないといった問題が中心である。この背景には、2つの原因があるようだ。ひとつは、自分で

考える習慣がついていないこと。自分ひとりで悩みや問題を抱え、自分を見つめながら、それをどの様に解決していくかといった習慣ができていないことにある。第2は、ソーシャル・スキルの欠如である。社会生活を送るための様々なスキルを学習していないということである。その結果、他者との付き合い方やコミュニケーションの取り方で悩むことになる。従って相談室の仕事も悩みの解決だけではなく、悩み方の援助や悩みの抱え方を理解させることが中心となる。それと同時に社会生活に必要なスキルを教えることになる。いわば軽度の誰しもが経験し自力で解決してきた悩みが、相談室での重度の悩みに変化してきたといえよう。つまり相談室は重度の不安や悩みを抱えた特定の人が行く場所ではなく、悩みの程度に関係なく誰でもが訪問する場所に変化してきたといえよう。それ故に、学生諸君には、ひとりで解決できない問題にぶつかったときには、気楽に相談室を訪れて欲しい。

教養総合「平和を生きる」が 好評のうちに終了

10月から新企画もスタート

市民にも無料で公開している教養科目「教養総合」を、今年度は初の試みとして年2回開講しているが、そのうち春学期開講の教養総合F「平和を生きるー20世紀の戦争に学ぶ」が好評のうちに7月10日で終了した。これは学内外の12名の教員がリレー式に1人1回ずつ、それぞれ政治・経済・歴史・文学などの立場から20世紀の戦争を振り返り、平和について考えるというもの。教養総合は昨年度実施の「人間観と世界の文学」も多くの市民の参加を得て好調であったが、それを受け、「平和を生きる」にはさらに多数の学生・市民が熱心に受講し、会場の200人教室は毎回ほぼ満席となった。

以下、最終回に行ったアンケートから「昭和初期に生を受けた自分にとっては20世紀の戦争についてなぜおこったのか等よくわかっていなかったの、自分の生きて来た世紀を振り返っての学習は胸が痛む思いだった」「専門外のテーマにとりくまれた先生方に驚いた」「平和を生きるためには過去の戦争をあらゆる角度から分析していくことが大切なことを痛感した」(以上社会人)、「考えさせられる講義に感謝。さらに教養を深めたい」「自分の認識不足に気づくことができた」「戦争についての学習は貴重なものであると思った」(以上学生)。

秋学期の教養総合Gは、「くらしに生かす知恵」のテーマで10月16日から開講の予定。詳細は本学教務部まで。



立ち見も出た教養総合F第1回(4月17日)の教室

よき思い出を作ること」だとすれば、この日が学生一人一人にとってよき思い出になったことはいふまでもありません。ここでスタッフ、参加者の声を少し聴いて下さい。



経済学科2年 福田 聡

自分の中国語が何処まで通用するか試してみたいと思って出場しました。授業中前に出て練習し、又留学生に聞いてもらい、細かいところまで発音出来るように何回も口に出し、2位になることが出来ました。この経験を1年間留学する青島大学の学生生活に生かしたいと思います。

経済学科3年 森野 陽子

改めて中国語の発音の難しさを実感しました。発音を先生や留学生に指導して頂いた事により、交流が更に深まったと思います。ここで学んだ事と思い出を青島留学に生かし、新たな挑戦をしてきたいと思っています。

経済学科4年 橋本 芳明

初めて司会という大役をさせてもらいました。司会の楽しさと難しさを体験することができました。この経験を生かし、これからの北京留学をより一層充実したものにしていきます。



退任教員挨拶

下関の新しい生活

はじめまして、ギャビン・ハンブリッジです。29歳でシドニー出身です。今年シドニー大学院国際関係、経済発展修士を修了しました。また、タイのマイクロクレジットに関する報告書を出版しました。その間、シドニー博物館でシドニー市内小学生から大学生まで

エクスカッショングループを対象に館内の説明とともにディ

スカッションの進行役を担当しました。以前はオーストラリアANZ銀行で日本人ビジネス担当として5年間勤務しました。

シドニーには驚くほどの様々な国のレストランがあり、よく食べに行きます。中でも私の好物は、韓国料理なら石焼ビビンバ、日本料理なら、秋刀魚塩焼きとしめさばです。また、ここシドニーはオリンピックを9月にひかえているため、多くのフェスティバルとイベントがあります。オリンピックの時にはもっとすばらしくなるでしょう。シドニーはいつもとても賑やかです。(私がよくカラオケボックスで歌うから?!) 私はエクササイズもよくします。例えば、ヨガとハイキングが好きです。下関にはすばらしい自然があると聞いているのでぜひ、ハイキングをしたいです。

初めて日本に来たのは、高校の頃で留学生として島根県松江市でホームステイしました。また、大学の時大阪の追手門学院大学でも留学生として日本の文化に親しみました。島根の自然はきれいで、大都市の大阪での生活も刺激的でした。5月からは下関の生活、歴史を学びたいと思います。今からとても楽しみにしています。皆さん、どうぞ宜しくお願いします。

(この文章は、新任の時の挨拶として書かれ、事情により掲載が遅れたものです。その後、残念ながら一身上の都合により、急遽帰国されました。)

海峡を渡りました

マーク・フリン(外国語実習)

2年間の下関市立大学での勤務を終え、私は北九州工業高等専門学校へと移りました。下関に来たばかりの頃はとても小さい町だなという印象でしたが、すぐに多くの友人も出来、数々の楽しい思い出を作ることが出来ました。住めば都とはまさにこのことでしょう。そして何より市大はとても楽しい職場でした。教師陣、スタッフの方々、そして生徒達の多くは皆とても親しみやすく、それが故にリラックスした良い雰囲気中市大には有るのだと思います。

私は常々生徒の名前を覚えるということとはとても大切な事と思っています。市大ではほとんどのクラスが小人数であったため幸いそれが可能でした。生徒の顔と名前が一致していることによって学校内外を問わず気軽に声をかける事が出来、生徒とのより一層の親近感が生まれたように感じます。お昼に学食に行くのも楽しみの一つでした。学食には大体一人で出向く事が多かったのですが、必ずといっていい程他の先生方や数人の生徒達と会う為一人で食べたという経験はほとんど有りませんでした。そして食事をしながらバラエティーに富んだ話題で会話が弾みました。特に生徒達とは授業中にはないリラックスした雰囲気の中で会話を楽しむ事が出来ました。また、市大のサークル活動への参加ももう一つの忘れられない思い出です。私は2年間を通してキャンパス内外における様々なイベントに参加し、生徒達と一緒に楽しませてもらいました。

市大にはとても素晴らしい交換留学のプログラムが有ります。私もオーストラリアとトルコへ行く生徒の留学前の準備を手伝うという形によって楽しく参加させて頂きました。私自身、交換留学生にとってこの「準備」というものはとても大切なものだと思いますので、今後とも是非このプログラムが



南アフリカ訪問記

下 田 守

昨年度の国外研修について記せという編集部からの注文である。英国リーズ大学の1年間は得難い経験ではあった。しかし、英国についてはリーズからほど近いヨーク大学に行かれた小野博則氏が社会科学者らしい観察眼と筆力による達意の文を一年前に書かれたばかりである。

そこで、昨年12月に学会で訪れた南アフリカについて少し報告したい。英国からはかなり身近に感じられるが、それでもロンドンからケープタウンまで約11時間半かかる。初夏の12月は観光シーズンの始まりである。日照時間が著しく少ないイングランド北部から夜行便で着いた所は強い陽射しで連日30度の別世界であった。短い滞在のごく狭い見聞からの印象に過ぎないが、いくつかの点に触れてみよう。

ヨハネスブルグ中心部のビル街は企業が次々と撤退してゴーストタウンに近くなり、白昼でも一人歩きは直ぐに身ぐるみはがれる危険があると言われる。郊外の大学や企業団地でも、入り口のゲートでガードマンが入ってくる人と車をすべてチェックしていた。このような状態の背景に、アパルトヘイト廃止後も人種間の経済格差は縮まらず、失業率が国全体で40%近く、ヨハネスブルグで約50%、黒人などが集中する地区や地方では70~90%にもなると言われるような状況がある。近年、貧困層や近隣諸国の難民などが大都市に集中して治安が急速に悪化したらしい。

学会の発表が終わった翌日、最大の黒人居住区ソウェトを運転手兼ガイドによる案内という個人ツアーで訪れた。ヨハネスブルグでは旅行会社を通してのツアーか信頼できるタクシーでないと観光も難しい状況だ。ソウェトに住むガイドは片時も休まず熱心に説明しながらネルソン・マンデラやデズモンド・ツツ(大司教)の育った家やソウェト蜂起の記念広場などを案内してくれた。バラックが並ぶスラムから豪邸がある一角までありのままのソウェトの姿を見たらうでで考えてほしい、と言う姿勢に好感が持てた。

ケープタウンのように海と山の両方の雄大な自然に恵まれた大都市は世界でも比類がないのではと思う。中心部のすぐ背後に横たわるテーブルマウンテンを初めとする岩山の山なみは海岸線から近いだけに迫力満点であり、天候や見る角度によってさまざまな表情を見せてくれる。ケープ半島の海岸線にはリゾート地・漁港・ペンギンの生息地などさまざまなビーチがあり、喜望峯を含む半島南部一帯は広大な自然保護区になっている。保護区の中央に左右に立つバスコ・ダ・ガマとパーソロミュー・ディアスの記念碑が、この地の世界的意義を思い起こさせてくれた。

ケープタウン沖合のロベン島は12月初めに世界遺産に指定されたばかりであった。17世紀以来の刑務所は今も博物館になり、政治犯だった元囚人と元看守たちがともに働いているという。過去の負の遺産に目をつぶることなくむしろ活用しながら、かつて対立した人たちが手を携えて未来を築こうとしている姿は、多くの困難にもかかわらず躍進していこうとするこの国の象徴のように思えた。

外国研修報告

シアトル英語研修を終えて

上倉 一男(英語)



さよならパーティにて

7月15日からおよそ4週間のあいだ、アメリカのシアトルにあるワシントン州立大学・シアトル校で英語研修を行いました。シアトルの街は海と湖に囲まれた人口50万人あまりの街で風光明媚で治安が良く、多くのアメリカ人が「暮らしてみたい」と思う街です。学生たちは2人一組になってアメリカの家庭にホームステイしながら大学での英語の授業を受けました。

この研修を通して学生たちが一番苦労したのは、自然なスピードで話される英語がなかなか聞き取りにくい、ということでした。しかし3週間あまりアメリカ人の家庭に暮らした効果は大きく、帰る頃には多くの学生のヒアリングの力がぐんと伸びていたのには驚かされました。

最終週は授業もあったのですが、各自旅行したい学生は旅行に出かけることを許していました。国境を越えてカナダのバンクーバーに行った学生もいましたし、海沿いの島へ鯨のワッチングに出かけた学生、シアトル近郊にある富士山に似た形のレイニア山に登った学生もいました。また横浜にいた佐々木投手がシアトル・マリナーズへ移籍しているので、彼の試合をたっぷり見た学生もいました。

短い間でしたが、学生たちは英語の勉強のみならず様々な形でアメリカという国と人びとに接することが出来たのではないかと思います。

留学して良かった

国際商学科2年 深草 友紀



青島大学での授業風景

私は中国へ留学する前に「中国での授業内容や、生活の細かい所まで聞き取れ、理解できるようになりたい」という目標をたてていた。目標達成のため、できるだけ中国語を聞き取れるよう努力した。中国の人たちはあまり親切ではなかった。デパートや食堂の店員、タクシードライバーの態度には、初め、かなり腹が立った。

私がデパートへ買い物に行ったときのことで。中国では先に代金を払うのだが、その時店員に何か言われた。全く聞き取れなかった私が「すみません。聞き取れません。」と言うと、店員はムッとした顔をして、おつりとレシートを投げて渡してきた。日本では考えられない行為だ。私は悔しくて、それからちゃんと分かるまで聞くようにした。

青島大学の先生や食堂のおばさん達はとてもいい人ばかりだった。授業では実用的な会話を中心にして、レストランでの会話の課をやった時には、実際に昼食を先生と食べに行っただけで習ったことを実践したりし、たいへん勉強になった。すごく理解できるようになり、実に満足だった。食堂のおばさん達とは、一緒に餃子を作ったりした。とても仲良くなり、色々なことを教えてもらった。

この私の目標は、確実に達成されたと思う。今回の留学を通して、さらに中国が好きになり、中国に対してもっともっと興味を持つようになった。自分自身も、とても成長できたと思っている。留学をして本当に良かった。

外国研修を終えて

経済学科1年 田中 孝典



ソウル・南大門市場にて

海外も飛行機も初めてだったこの研修は、驚きの毎日で、多くの経験をしたと僕は感じている。

韓国に着いて、周りがハングルで改めて着いた事を実感した。初日だけは観光で、タワーに上がったりしていた。驚いたのは、韓国は右側通行でノーヘルバイクが60キロぐらいで走っていた。日本では考えられない光景だった。

2日目から約1週間、カナダ韓国語学院で9時から昼1時までハングルの勉強をした。そこでの授業の流れは、できる限り韓国語で話すことだった。韓国語の勉強を始めてまだ3ヶ月の僕たちにも授業の内容は分かりやすく、先生も丁寧に教えてくれた。授業の1つで、韓国風お好み焼「パジョン」を作ったり、貞洞劇場で韓国伝統芸術を観覧した。この伝統芸術は、日本の太鼓演奏とは一味違い、速いリズムの中に動きを交えて演奏するもので、僕はすごい衝撃を受け、興奮した。他にも授業が終わった後、資料館や博物館、古い建物も見に行った。朝鮮半島はいつの時代にも中国や日本から侵略を受けてきたこと、日本から見た韓国、韓国から見た日本との違いを改めて知った。食事は辛い食べ物が多く、物価は日本と同じくらいかちょっと安い、バスや地下鉄、タクシーは、はるかに安かった。

この研修を終えて思った事は、頑張って勉強して、また韓国に行き自分の思いが話せたらということだった。あと物を

考える視野が広がるかもしれないと思った。本当にいい経験をしたと思う。

第31回英語スピーチコンテスト

高レベルの大会に5人が入賞



長い伝統を誇る本学ESS主催のスピーチコンテストが6月24日行われ、全国の大学から参加した12名が覇を競った。大会は第一部の「準備されたスピーチ」(7分間)と第二部の「即席スピーチ」(4分間)に分かれて行われた。出場者は、第一部では福祉・子どもの非行・犯罪など当面する問題を英語でうまく論じ、第二部では教育・環境など与えられた題をもとに15分間考えたのちに話した。いずれもレベルの高いスピーチが展開された。接戦のなかから次の5名が入賞し、下関市長杯、市大学長杯、ESS賞を獲得した。

- 優勝 佐藤 麻子(立教大学3年)
- 第2位 新藤早紀子(北九州大学3年)
- 第3位 上村 洋平(早稲田大学3年)
- 第4位 三刀屋有理(九州大学2年)
- 第5位 保田あゆみ(大阪大学2年)

なお本学からも2名が出場したが、今回は入賞を果たさなかった。審査は4人のジャッジによって行われ、本学の小林英治、ガビン・ハンブリッジ両先生が当たられた。今大会の委員長を務めたESSの緒方節子さん(経済3年)は「出場者はこれを経験にさらに飛躍してほしい」と締めくくった。ESSのメンバー全員が協力して大会を盛り上げたことが印象に残った。

第1回下関市中国語弁論大会を開催して 一充実感と達成感一

山田 留里子(中国語)

当日は、とても暑い一日でした。会場を埋めた200名余りの方々の熱気で233教室は全く涼しくありませんでした。1人でも多くの人に何らかの「思い出」を作って差し上げたく開催いたしました。さて今回は第1回目ですが、実は昨年にも学内中国語弁論大会を行いました。そして、この流れを止めたくない強く願っておりましたところ、金田満男先生をはじめとする下関日中友好協会のご協力により実現することができました。今回も準備、司会、接待等に学生は大いに力を付けてきました。私は学生の「伸びる力」をそっと後押ししてただけなのです。「身をもって知る」という体験を積み重ね、力を出し切ったという充実感、やればできるという達成感を実感することが大切ではないかと思っています。「よき教育とは

私の教育・研究

木村 健二 (商業史・経営史)



近代における日本と朝鮮との経済関係を、主として1876年の釜山開港から第一次世界大戦までの時期に関して検討している。具体的には、1910年時点で海外に在留する人数としては最多となっていた在朝鮮日本人の、進出の経緯や資本輸出の背景はどのようなものであったのか、開港場を中心とする日本企業の経営内容にはどのような特徴があったのか、こうした日本人・日本企業の進出によって朝鮮社会にはどのような影響を及ぼすことになったのか、といった事柄の解明である。

この問題を解明する際に利用し得る資料としては、出先の領事館から寄せられる報告書、開港場にありついで組織された日本人商業会議所の出版物、同じく開港場で出版された日系・朝鮮系の新聞・雑誌類、個別企業の営業記録、出身地に残された諸資料類などがあげられる。

分析の結果、当該期のとりわけ再編を迫られていた西日本各県の地域経済にとって、朝鮮は販売市場、営業活動場所、労働力給源として少なからぬ意味を有していたということ、朝鮮側にとっては、資源や活動場所を奪われる一方で、西欧文明の輸入や制度面での近代化、工業化、労働市場の開拓などの点で大きな意味を有したが、それは偏奇的・差別的な形で現れることとなった、といったことなどを知り得た。そして何よりも併合という事態のなかで進行するこれらの過程は、朝鮮人にとって複雑な対応を迫るものとなったということができよう。

第17回市民大学

●語学・コンピュータ講座(下関市立大学にて)

○朝鮮語会話中級(定員40名、B講義棟236番教室)

9月20日～12月6日(12回)毎週水曜18:30～20:00

李 亮(下関市立大学常勤嘱託講師)

○英会話中級(定員40名、B講義棟236番教室)

9月21日～12月21日(12回)毎週木曜18:30～20:00

ニール・マクレラン(下関市立大学非常勤講師)

○中国語会話中級(定員40名、B講義棟236番教室)

9月25日～12月18日(12回)毎週月曜18:30～20:00

李 曉蓉(下関市立大学常勤嘱託講師)

○初心者のためのパソコン入門

(定員40名、B講義棟229番教室)

10月23日～12月11日(8回)毎週月曜18:30～20:00

佐々木 実(下関市立大学助教授)

●連続シンポジウム：下関の20世紀を振り返る

日時：2000年10月14日、21日、28日(出)14時～17時

場所：下関市立大学(B講義棟223番教室)

コーディネーター：下田 守(下関市立大学教授)

○第1回(10月14日)：下関の在日朝鮮人

基調講演：前田博司(下関市立大学非常勤講師・地域論担当)

「海を渡った人たち——昭和館の歴史とともに」

パネリスト：鄭 吉子(グリーンコープやまぐち生活協同組合事務局長)

宋 洪喆(山口県日韓親善協会青年部会長)

木村健二(下関市立大学教授)

司 会：堀内隆治(下関市立大学教授)

○第2回(10月21日)：戦争と下関

基調講演：野村忠司(下関市文化協会副会長)

「あの日という日——平和に託する思い」

パネリスト：向井 寛(10フィート映画を上映する下関市民の会会員)

沢村和世(原発いらん！下関市民の会事務局長)

山本興治(下関市立大学教授)

司 会：下田 守(下関市立大学教授)

○第3回(10月28日)：町並みと建物の一世紀

基調講演：高月鈴世(下関市教育委員会文化課文化財保護主事)

「近代化を象徴する町・唐戸——その建物を追いかけて」

パネリスト：清永唯夫(郷土の文化財を守る会会長)

有田照子(環境を考える会会員)

坂本紘二(下関市立大学教授)

司 会：平岡昭利(下関市立大学教授)

各回とも後半の約1時間を会場の参加者を含めての意見交換にあてる予定です。下関の20世紀を振り返りつつ、それぞれの立場からさまざまな体験や思いをお寄せ下さい。

産業文化研究所が共同研究 待望の環境研究はじまる！

産業文化研究所所長 吉津 直樹

関門地域共同研究会は99年度から開始した第4次プロジェクト(プロジェクト期間は2年間)の初年度に当たる調査研究結果の(中間)報告書『関門地域における環境保全への取組み(1)』をとりまとめ、7月28日、海峡メッセ下関において報告会を開催した。

なお、(中間)報告書は以下の項目からなっている。

- 1) エコタウン事業の地域的特徴と課題
- 2) リサイクル事業と社会システム
- 3) 北九州市製造業と環境問題
- 4) 下関市の環境保全への施策の現状
- 5) 下関市における環境産業について
- 6) 下関・北九州市水産業における環境問題への対応課題
- 7) 関門地域における環境国際協力
- 8) 北九州市・下関市における環境教育の現状と今後の展望——公的機関を中心として

99年度は初年度ということもあって、個々人の研究テーマを進めるとともに全員で分担して通産省の施策である「エコタウン事業」の指定を受けている全国9地域(北は札幌から南は大牟田まで)と水俣の計10地域への視察も行なった。本年度は中間成果を踏まえて、下関市・北九州市製造業企業への大規模なアンケート調査、個々の先進企業へのヒヤリング、教育機関を通しての意識調査(アンケート調査)等が進められ成果が期待される。

引き継がれる事を願っています。また、私はオーストラリアに帰った際も必ずこれらの市大からの交換留学生達と会う機会を作りました。実際彼らの日々の進歩は目覚しく、私にはとても満足のゆくものでした。市大にはたくさんの留学希望者がいるかと思いますが、今後もそういった生徒達の留学の成功を心より祈っています。

生協から

はじめまして 楽しい食堂にします

下関市立大学生協同組合
食堂店長 吉田 秀文



久保店長の後任として赴任しました。生協の吉田です。松山大学生協で、食堂、本部、経理と仕事をさせてもらった後、昨年春に梅光女学院大学生協に赴任し、この度当生協へ来ることになりました。

りました。

下関市立大学生協食堂がオープンする時に、1ヶ月程支援に来ましたので、なんとも懐かしい気がします。

食堂の店長として普段は勤務いたしますが、パソコンの対応や新学期、ショップ店舗などいろんな方面でこの大学のお役に立ちたいと考えています。

食堂では、おいしく安全な商品を提供することはもちろんのこと、「いかに組合員に気持ちよく利用してもらえるか」を常に考えていきたいと思っています。気持ちよくお互いが挨拶できて、組合員が自然と集まってきて寛げるような、そんな食堂にしたいものです。今後ともよろしく願いいたします。

ベンチャービジネスシンポジウム開催

新しい分野で企業を起こすベンチャービジネスについて考える「ベンチャービジネスシンポジウム2000」が、7月17日に233教室で開催され、一般市民を含む350人が参加した。

このシンポジウムは、本年度山口県の支援事業として行われたもので、第1回目を山口大学で開催し、第2回目として、下関市立大学附属産業文化研究所と財やまぐち産業振興財団の共催により下関市立大学で開催された。

シンポジウムでは、まず、神戸大学大学院の加登豊教授による「起業というキャリア選択」と題する基調講演があり、続いてパネルディスカッションがあった。パネルディスカッションでは、コーディネーターに加登教授、パネリストにNTTをやめて電子メール会社インフォキャストを創設した谷井等社長、ベンチャー企業へ投資をしている山口キャピタルの安部睦夫社長、それに江島潔下関市長が参加した。

この中で、起業家の条件として、谷井社長は自己責任の原則、ビジョンを納得させる説明能力、提案を判断する決断力、仕事以外を犠牲にする意気込みを挙げ、安部社長は体力、忍耐力、人を見る目などが必要と語った。また、江島市長は、下関市の中国、韓国との結びつきなど起業に適している点を挙げ、それぞれの立場で起業に対する意見を述べた。

第39回馬関祭について

今年もまた大学祭の時期がやってきました。11/2(木)～11/5(日)の予定で第39回大学祭、通称「馬関祭」が行われます。今年は第39回にちなんで、テーマを「サンキュ」としました。これには、大学祭に関わる、あるいは関わってこられたすべての方々に感謝するという意味を含めています。大学祭実行委員会一同、みなさまのおしをお待ちしております。

一大学祭日程一

- 11月2日(木)前夜祭、ふく鍋
- 11月3日(金)千田光雄講演会、文化会企画、体育祭
- 11月4日(土)ミニサッカー
- 11月5日(日)サムシング・エルスコンサート、花火大会

同窓会総会 「2000年名古屋の集い」が開催

下関市立大学同窓会総会は、従来から「新年の集い」と銘打って全国各地で行われてきましたが、今年から各支部総会と兼ねて開催されることになり、去る6月17日名古屋グランドホテルにおいて「2000年名古屋の集い」が、中部総支部総会と兼ねて開催されました。

大学側からは、堀内研究科長、来見田事務局長が出席し、堀内研究科長が大学の現状・課題等について説明しました。

同窓生は、母校の近況に関心が深く、特に現有の施設・教職員で昼夜開講制の大学院を開設したとのニュースには、同窓生の喜びも大きく賞賛の声が上がりました。

同窓生も、各企業で中堅あるいは幹部職員になって活躍している人が多く、同窓会に対して本大学の就職開拓や入学志望者確保等についても、協力、PRをお願いしました。

懇親会ではアトラクションとして、本市出身で同窓生のプロ歌手、高島浩二氏のミニライブもあって盛り上がり、最後に、これからは大学と同窓会が一層緊密に連絡し、大学の発展・充実に取組んでいくこととし閉会となりました。

「2000年名古屋の集い」を受け持たれた中部総支部(愛知、三重、岐阜3県)では、1年余り前から梅谷支部長以下役員、会員一丸となって準備活動を行ってきたとのことであり、大変和やかで温かい雰囲気での総会でした。

なお、下関市立大学同窓会の現状は同窓生11,358人(短大卒935人、大学卒10,423人)、1本部・15支部があります。



同窓会総会懇親会

2001 年度入試の概要

◆推薦入学

○全国推薦

2000年11月20日(月)小論文

◆特別選抜

○帰国子女特別選抜

2000年11月20日(月)小論文(日本語による)／面接

○中国引揚者等子女特別選抜

2001年1月29日(月)小論文(日本語による)／面接

◆一般選抜

○前期日程

2001年2月25日(日) 下関・大阪

○地域推薦

2000年11月20日(月)小論文

○社会人特別選抜

2000年11月20日(月)小論文／面接

○外国人留学生

2001年1月29日(月)小論文(日本語による)／面接

○公立大学中期日程(旧C日程)

2001年3月8日(木) 下関・大阪・福岡

前期日程試験の実施教科・科目および配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点 合計
経済 学科	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から2科目(2教科)を選択	小論文	800点
	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 最も得点の高い科目を300点満点に換算する。 2. 2番目に得点の高い科目を200点満点のまま用いる。 300点+200点	300点	
国際 商学 科	・外国語(必須) ・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科から1科目を選択	小論文	800点
	【選択の仕方と配点】 1. 外国語を300点満点に換算する。 2. 外国語以外のすべての科目を200点満点に換算し、最も得点の高い科目を用いる。 300点(外国語)+200点	300点	

公立大学中期日程試験の実施教科・科目および配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点 合計
経 済 学 科	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)を選択	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算し、高い順に3科目(3教科)を用いる。 200点×3	200点	
国 際 商 学 科	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)を選択 ※ただし、この3教科の中に数学か外国語のどちらかを含むこと。	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 数学か外国語のうち得点の高い方の科目を用いる。 2. 上で用いた科目以外の科目のうち得点の高い順に2科目を用いる。 200点×3	200点	

※前期・公立大学中期日程(旧C日程)とも「国語Ⅰ」は選択科目から除く。地理歴史と公民からは1科目のみ。

◆編 入 学

2001年2月25日(日)小論文／面接 ※今回から編入学定員を設定し実施する。

第47回関北インカレ春季大会 結 果 報 告

北九州・下関地区の19大学が参加し、16競技で熱戦を繰り上げた第47回北九州・下関地区大学体育大会(通称、関北インカレ)春季大会の成績は次のようになりました。

今年度は、福岡県立大学が当番大学となり大会運営等大変お世話になりました。

秋季大会は10月下旬より開催されますので、尚一層の活躍を期待しております。

競技種目	成 績	競技種目	成 績
1 水 泳 競 技	—	9 バドミントン (石飛)	男団 4 位
2 硬 式 野 球	—		女団 準優勝
3 準硬式野球	初戦敗退		女子シングルス 3位
4 硬 式 庭 球	男団 初戦敗退 女団 準優勝	(石飛、和田組)	女子ダブルス 4位
5 ソフトテニス	男団 予選敗退 女団 予選敗退	10 バスケットボール	ベスト4
6 卓 球 (橋本、古澤組)	男団 3 位 男子ダブルス優勝	11 ラグビー	初戦敗退
7 バレーボール	男 初戦敗退	12 サッカー	4 位
8 漕艇競技	—	13 空 手 道	予選敗退
		14 剣 道	初戦敗退
		15 柔 道	団体 3 位
		16 弓 道	男女 予選敗退

行事記録(2000年6月～8月)

6月	1日(木)	開学記念日
	8日(木)	名誉教授授与式
	11日(日)	後援会総会
	21日(木)	公務員ガイダンス
	22日(木)	大学入試説明会
7月	7日(金)	春学期(前期)試験時間割発表
	15日(土)	夏季集中講義開始 7/21まで
	16日(日)	夏季休業開始 8/31まで
	17日(月)	ベンチャービジネスシンポジウム
	28日(金)	関門共同研究会報告会
8月	8日(火)	キャンパス見学会
	19日(土)	韓国東義大学学生表敬訪問
	30日(木)	夏季集中講義開始 8/31まで

編 集 後 記

広報32号をお届けする。前号から坂本(委員長)、谷口(副委員長)、内山、金尾、櫻木、素川、藪内の教員委員、来見田、高山の事務局委員という新委員会で編集している。ご意見・情報などを上記委員までお寄せ頂きたい。(谷口)